

VI 經營分析

1. 業務分析
2. 財務分析
3. 労働生産性

1. 業務分析

項目		算出方法	算式/令和4年度(千円)
負荷率 (%)		$\frac{1日平均配水量(m^3)}{1日最大配水量(m^3)} \times 100$	$\frac{26,028}{28,119} \times 100$
施設利用率 (%)		$\frac{1日平均配水量(m^3)}{配水能力(m^3)} \times 100$	$\frac{26,028}{36,170} \times 100$
最大稼働率 (%)		$\frac{1日最大配水量(m^3)}{配水能力(m^3)} \times 100$	$\frac{28,119}{36,170} \times 100$
配水管使用効率 (m ³ /m)		$\frac{年間総配水量(m^3)}{導送配水管延長(m)}$	$\frac{9,500,260}{382,595}$
固定資産使用効率 (m ³ /万円)		$\frac{年間総配水量(m^3)}{有形固定資産(万円)}$	$\frac{9,500,260}{1,485,450}$
年間有収水量 1m ³ 当たり	給水収益 (円)	$\frac{給水収益(千円)}{年間総有収水量(m^3)} \times 1,000$	$\frac{1,349,385}{9,148,660} \times 1,000$
	給水費用 (円)	$\frac{経常費用(千円) - 受託工事費等(千円)}{年間総有収水量(m^3)} \times 1,000$	$\frac{1,731,790 - 222,887}{9,148,660} \times 1,000$

項目	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考	
負荷率 (%)	90.2	91.8	92.0	92.1	92.6	負荷率 (施設の稼働状態を把握する)	
施設利用率 (%)	73.9	73.9	74.1	73.3	72.0	施設利用率 (施設の利用状況をみる)	
最大稼働率 (%)	81.9	80.5	80.5	79.6	77.7	最大稼働率 (施設投資の適正をみる)	
配水管使用効率 (m ³ /m)	25.9	25.8	25.7	25.3	24.8	配水管使用効率 (導送配水管1m当りの配水量をみて、その効率をはかるもの)	
固定資産使用効率 (m ³ /万円)	6.8	6.8	6.7	6.5	6.4	固定資産使用効率 (有形固定資産1万円当りの配水量をみて、その効率をはかるもの)	
年間有収水量 1m ³ 当たり	給水収益 (円)	149.95	150.04	126.65	126.02	147.50	給水収益 (供給単価)
	給水費用 (円)	158.97	156.04	158.70	159.90	164.93	給水費用 (給水原価)

2. 財務分析

項目	算出方法	算式/令和4年度(千円)
固定資産構成比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$	$\frac{16,388,000}{16,388,000+2,950,338} \times 100$
固定負債構成比率 (%)	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	$\frac{4,678,037}{19,338,338} \times 100$
自己資本構成比率 (%)	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	$\frac{9,232,831+2,198,667+2,599,902}{19,338,338} \times 100$
固定比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$	$\frac{16,388,000}{9,232,831+2,198,667+2,599,902} \times 100$
固定資産対長期資本比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$	$\frac{16,388,000}{9,232,831+2,198,667+4,678,037+2,599,902} \times 100$
流動比率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{2,950,338}{628,902} \times 100$
現金比率 (%)	$\frac{\text{現金} \cdot \text{預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{2,547,771}{628,902} \times 100$
自己資本回転率 (回転)	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}) \div 2}$	$\frac{1,367,494-146}{(14,143,492+14,031,400) \div 2}$
固定資産回転率 (回転)	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産}+\text{期末固定資産}) \div 2}$	$\frac{1,367,494-146}{(16,538,715+16,388,000) \div 2}$
流動資産回転率 (回転)	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産}) \div 2}$	$\frac{1,367,494-146}{(2,961,845+2,950,338) \div 2}$
未収金回転率 (回転)	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首営業未収金}+\text{期末営業未収金}) \div 2}$	$\frac{1,367,494-146}{(148,091+207,520) \div 2}$
総収支比率 (%)	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	$\frac{1,837,664}{1,870,898} \times 100$
営業収支比率 (%)	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$	$\frac{1,367,494-146}{1,585,101-0} \times 100$
利子負担率 (%)	$\frac{\text{支払利息}+\text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債}+\text{長期借入金}+\text{一時借入金}+\text{リース債務}} \times 100$	$\frac{38,195}{3,894,401+0+0+0} \times 100$
企業債償還元金対減価償却費比率 (%)	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	$\frac{262,756}{618,275} \times 100$
料金収入に対する比率	企業債償還元金 (%)	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$
	企業債利息 (%)	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$
	企業債元利償還金 (%)	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
	職員給与費 (%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$

項目	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考	
固定資産構成比率 (%)	85.3	84.8	83.7	84.8	84.7	固定資産構成比率 (総資産の中での固定資産の割合)	
固定負債構成比率 (%)	24.4	24.3	24.3	24.4	24.2	固定負債構成比率 (固定資産構成比率と自己資本構成比率とは対応関係となるが、 負債、資本に対応する調達方法をみる)	
自己資本構成比率 (%)	72.5	72.7	72.1	72.5	72.6	自己資本構成比率	
固定比率 (%)	117.6	116.6	116.2	116.9	116.8	固定比率 (自己資本で固定資産をどの程度まかなっているのかをみる)	
固定資産対長期資本比率 (%)	88.0	87.4	86.9	87.5	87.6	固定資産対長期資本比率 (固定資産に対する調達原資の適合関係をみる)	
流動比率 (%)	477.0	511.8	450.6	495.3	469.1	流動比率 (短期債務に対して応ずべき流動資産が十分にあるかどうかの支払い能力をみる)	
現金比率 (%)	370.1	400.2	382.1	457.0	405.1	現金比率 (即時支払い能力をみる)	
自己資本回転率 (回転)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	自己資本比率 (自己資本の利用度をみる)	
固定資産回転率 (回転)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	固定資産回転率 (固定資産の利用度をみる)	
流動資産回転率 (回転)	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	流動資産回転率 (流動資産の利用度をみる)	
未収金回転率 (回転)	7.0	7.1	7.8	8.1	7.7	営業未収金回転率 (営業未収金の回収の程度を表す)	
総収支比率 (%)	101.2	102.4	101.7	92.6	98.2	総収益対総費用比率 (収益と費用の相対的な関連性を表す)	
営業収支比率 (%)	91.8	93.4	78.9	76.7	86.3	営業収益対営業費用比率 (業務活動能率を表す)	
利子負担率 (%)	1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	利子負担率 (資金調達のための負債に対する利子費用の利率の高低をみるもの)	
企業債償還元金対減価償却費比率 (%)	25.3	24.7	28.1	42.0	42.5	企業債償還元金対減価償却費比率 (起債元金とその補填財源である減価償却費に占める割合を表す)	
料金収入に対する比率	企業債償還元金 (%)	9.9	9.9	13.5	21.5	19.5	企業債償還元金 (企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準を表す)
	企業債利息 (%)	3.4	3.2	3.6	3.4	2.8	企業債利息 (企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準を表す)
	企業債元利償還金 (%)	13.3	13.2	17.1	24.9	22.3	企業債元利償還金 (企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準を表す)
	職員給与費 (%)	21.3	17.3	21.1	21.9	20.1	職員給与費 (職員給与費＝受託工事費・児童手当を除いた額)

3. 労働生産性

項目	算出方法	算式/令和4年度
職員一人当たり	有形固定資産 (万円)	$\frac{\text{有形固定資産(万円)}}{\text{損益勘定所属職員数(人) + 資本勘定所属職員数(人)}}$ 1,485,450 34+6
	給水人口 (人)	$\frac{\text{給水人口(人)}}{\text{損益勘定所属職員数(人)}}$ 82,962 34
	給水量 (m ³)	$\frac{\text{年間配水量(m}^3\text{)}}{\text{損益勘定所属職員数(人)}}$ 9,500,260 34
	有収水量 (m ³)	$\frac{\text{年間有収水量(m}^3\text{)}}{\text{損益勘定所属職員数(人)}}$ 9,148,660 34
	営業収益 (千円)	$\frac{\text{営業収益(千円) - 受託工事収益(千円)}}{\text{損益勘定所属職員数(人)}}$ 1,367,494-146 34
	人件費 (千円)	$\frac{\text{総人件費(千円)}}{\text{総職員数(人)}}$ 297,294 40

項目	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考	
職員一人当たり	有形固定資産 (万円)	35,050	35,811	36,404	36,292	37,136	有形固定資産
	給水人口 (人)	2,407	2,387	2,354	2,322	2,440	給水人口
	給水量 (m ³)	271,088	271,586	271,570	268,806	279,419	給水量
	有収水量 (m ³)	261,253	259,769	259,863	257,961	269,078	有収水量
	営業収益 (千円)	39,654	39,534	33,431	33,040	40,216	営業収益
	人件費 (千円)	7,474	7,322	7,193	7,414	7,432	人件費

● 発行 貝塚市上下水道部
上下水道総務課
〒597-8585
貝塚市島中1丁目17番1号
TEL 072-433-7143
FAX 072-433-7183

● 発行年月 令和5年10月